

書名	白虎消失 高松塚壁画劣化の真相			著者名	大脇 和明／著		
出版社	新泉社	ISBN	978-4-7877-2116-7	本体価格	¥2,200	発売	2022/3/2
内容	発見時の鮮やかだった高松塚壁画群が、国宝となり文化庁が管理する間に、カビの大発生、作業時の損傷、そして石室解体へ。壁画劣化は防げなかったのか？古代史ブームを巻き起こした高松塚壁画がたどった道のりを新聞記者が丹念に追ったルポルタージュ。 「世界に例を見ない極上の壁画を後世に残そうと努力を重ね、格闘した担当者たちの苦悩があったことも事実だろう。だからこそ私は、高松塚古墳の壁画はなぜ、「白虎」の描線が消えたり、「飛鳥美人」や「青龍」が黒カビに汚染されたりするほどに劣化したのかを問いたい。」						

書名	中世都市奈良の考古学的研究			著者名	佐藤 亜聖／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-09362-0	本体価格	¥12,000	発売	2022/3/2
内容	著名な歴史都市、奈良の中世についての研究は、これまで寺院史料を中心に行われてきたが、近年調査が進んだ考古資料を活用し、俯瞰的にその歴史を再現することを目指す。古代都市から中世都市への変化、都市の商工業・葬送空間の変遷など、発掘成果をもとに新たな「中世都市奈良」の姿を描き出すとともに、日本中世宗教都市の実像を解明する。						

書名	正倉院文書の一研究 奈良時代の公文と書状			著者名	黒田 洋子／著		
出版社	汲古書院	ISBN	978-4-7629-4241-9	本体価格	¥11,000	発売	2022/3/3
内容	正倉院文書は奈良の正倉院に伝来した文書群で、政治法制・社会経済から諸文化におよぶ内容は、奈良時代史研究に不可欠な史料である。						

書名	金峯山寺の365日			著者名	保山 耕一／著		
出版社	西日本出版社	ISBN	978-4-908443-66-4	本体価格	¥1,700	発売	2022/3/8
内容	吉野千本桜の中にあり、役行者が開祖、山伏のお寺として有名な金峯山寺の日々奈良・吉野のお山で千年以上受け継がれてきた修験道の祈り。色鮮やかな巨大な秘仏ご本尊、金剛蔵王大権現様のこと。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」として登録されている吉野大峯の山々での山岳修行のこと。山伏や法螺貝のこと。吉野桜とご本尊のこと。明治政府の廃仏毀釈で一度は廃寺になったこと。解体修理中の国宝仁王門のこと。僧侶の役割とは。「とも祈り」とは。先人達が歴史の中で積み重ねてきた日々の修行と祈りの風景を、修験道の実践者である著者が縦横無尽に、豊富な写真とともに綴ったエッセイです。						

書名	日本の敬語			著者名	金田一 京助／著		
出版社	講談社	ISBN	978-4-06-527568-9	本体価格	¥880	発売	2022/3/10
内容	「敬語は日本語の美しさである。しかし、度をすぎるとうんざりする。」敬語はなぜ生まれたのか。尊敬と相殺される親愛の感情は、どう表現したらいいのか。原日本語、上代から奈良、平安、そして現代へ。敬語の起原と変遷をたどり、状況にふさわしい使い方を考える。一級の言語学者がじっくり向き合う、敬語の歴史と実用。(解説・滝浦真人)						

書名	マンガでわかる！10才までに覚えたい日本の歴史人物100			著者名	監修／高濱正伸、佐藤暢昭		
出版社	永岡書店	ISBN	978-4-522-43934-0	本体価格	¥1,500	発売	2022/3/10
内容	「マンガでわかる！10才までに」シリーズに、「日本の歴史人物」が登場！ 卑弥呼から始まり、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康はもちろん、注目の渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎など、必修の人物を盛り込んだ、マンガで笑って覚えられる教材です！						

書名	地図で読み解く奈良			著者名	浅田 晴久／著		
出版社	かがわ出版	ISBN	978-4-7803-1213-3	本体価格	¥1,700	発売	2022/3/14
内容	地形図を頼りに、歴史深い奈良の市街地や門前町、山あいを訪ねてその歴史と生活の変化をひもとき、地理学の魅力を伝える。						

書名	利休の茶書			著者名	編集／谷端昭夫		
出版社	淡交社	ISBN	978-4-473-04336-8	本体価格	¥10,000	発売	2022/3/24
内容	利休伝書といわれるものは数々ありますが、いずれも利休自身が書いたものとはされていません。利休の姿を知るためには、伝存する道具で推測する、あるいは同時代に書かれた書物を紐解くしか手がありません。本書では、利休生前に高弟が著した『山上宗二記』(表千家本と裏千家本)、利休の曾孫江岑が書き残した覚書類、奈良の松屋が書き記した『利休伝』、利休の茶会記とされる『利休百会記』などを取り上げます。さらに、利休とゆかりの深い大徳寺春屋宗園による『一黙稿』、古溪宗陳による『蒲庵稿』より、茶の湯に関わるものを抄録、後世の創作とされる『今井宗久茶湯書抜』も参考茶書として収録します。						